

舞鶴小唄 (舞鶴市)

時雨 音羽 作詞
中山 晋平 作曲

へ佐風の朝霧 港は夜明け

喜多の灯かげもほのくと

イートコ丹後の舞鶴ヨ

ヨツテケくヨイサツサ

ヤンレ ドウジヤイ

ドウジヤイナー

へ朝の詣りは 朝代さまよ

願をとくやら かけるやら

へくんでおくれよ 真名井の清水

切れぬ私の 心意気

へなるかならぬか 水無月さまよ

かけた願ひが 今日とける

へ丹後若狭の 沖ふきわけて

さらす青葉の山おろし

じふ

舞鶴民謡

Side - 1 (※印=吹入分)

舞鶴風流音頭

作詞 吉井勇
作曲 大村能章

牧野三朗

※一、舞鶴風流先ず第一は

古今伝授の幽音さまよ
残すところの種芽に出でて
今ちや桜の花ざかりく

ほんにはんにさ
のほほんのほい

※二、

愛宕山には霞がかゝる
袖にや別れの涙がかゝる
風もなつかしまだ移り香の
消えぬ名残りの

恋ごろもく

※三、

共に楽しむ桜の宴
夢見心地にひと日を送り
別れともない夕闇小闇
恋の闇路に なほ迷ふく

※四、

日毎夜ごとの朝代まいり
恋の願ひもただひとすじに
思ひ詰めればあの賑やかな
祭ばやしも 胸に染むく

五、

月ヶ浦風吹くともよしや
ともに手を取り白糸浜へ
往きて二人の浮名を流す
仇し仇浪 浪まくらく

六、

五老岳から港を見れば
憎くや並んだ乙島戸島
思うまいとは思へどいとど

七、

伽羅の匂ひ崎この黒髪は
恋のともづな出船をつなぐ
往かしともなや
身はこのまゝに

ほんと打込む 捨て鑑く

八、

卯月八日の松尾寺まいり
心の札所をここぞと定め
青葉山道仲良し登る
恋の廻路の 二人づれく

九、

雄鳥よいとこ水阻ぎ鳥が
今日また来てあれ穴を掘る
湧くは色よい情の泉
酌めば若やぐ

いつまでもく

十、

いささ恋の魚伊佐津の
川と水と契って
育ったからは
それを肴の深酒夜酒
酔へば情も 深くなるく



点検中

しばらくお待ちください

